



令和5年度 第1回 飯田市キャリア教育推進協議会

日時：5月29日（月）15:30～17:00

会場：A203・204 会議室

進行：伊藤生涯学習・スポーツ課長

- | | | | |
|---|---|--------------------|--------|
| 1 | 開会 | | 15:30 |
| 2 | 委嘱状交付 | | 15:30～ |
| 3 | 会長挨拶 | （飯田市教育長:熊谷邦千加） | 15:35～ |
| 4 | 自己紹介 | （名簿：裏面） | 15:40～ |
| 5 | 協議 | ＜進行：会長＞ | |
| | (1) キャリア教育の推進に関する基本的な方針と取組について | （事務局） | 15:45～ |
| | ① 第2次飯田市教育振興基本計画 | 資料No.1 P1 | |
| | ② 地育力で私と地域の未来をひらく「飯田型キャリア教育」の全体像 | 資料No.2 P2 | |
| | ③ 「飯田市型キャリア教育」の取組の経過 | 資料No.3 P3 | |
| | ④ 令和4年度飯田市キャリア教育推進協議会のまとめ | 資料No.4 P4 | |
| | ⑤ 令和5年度飯田市キャリア教育の推進について | 資料No.5 P5-8 | |
| | ⑥ 地育力を活かした幼児期から高等教育期まで一貫した地域人育成の推進体制 | 資料No.6 P9 | |
| | ア キャリア・パスポートについて | 資料No.7 P10-11 | |
| | イ 職場・福祉体験について | 資料No.8 P12 | |
| | ウ 「結いジュニアリーダー」育成講座について | 資料No.9 P13 | |
| | エ キャリア教育（人材育成）に関わる事業一覧 | 資料No.10 P14-16 | |
| | ＜質疑・意見＞ | | 16:05～ |
| | (2) 各業界や団体等におけるキャリア教育や地域人育成等の現状や課題について | | 16:35～ |
| | ＜情報交換＞ | | |
| 6 | その他、連絡 | | 16:52～ |
| | (1) 飯田市キャリア教育推進フォーラム | | |
| | 期日：令和6年2月10日（土）午後 | 会場：鼎文化センター | |
| | (2) 第2回キャリア教育推進協議会予定（変更の可能性があるので、改めて通知いたします。） | | |
| | 期日：令和6年2月26日（月）15:30～17:00 | 会場：本庁 A203・204 会議室 | |
| 7 | 副会長挨拶 | （飯田商工会議所 会頭 原 勉 様） | 16:55～ |
| 8 | 閉会の言葉 | | 17:00 |

※ 参考資料：飯田市キャリア教育推進協議会設置要綱

資料No.11 P2P17-18

別冊：職場・福祉体験受入れ事業所（業種別・一覧）

別冊資料 P1-9

飯田市教育委員会

令和5年度 飯田市キャリア教育推進協議会 委員名簿

(敬称略)

会役職	所 属	所属における役職	氏 名
会 長	飯田市教育委員会	教育長	熊谷 邦千加
副会長	飯田商工会議所	会頭	原 勉
副会長	みなみ信州農業協同組合	代表理事組合長	寺沢 寿男
委 員	長野県南信州地域振興局	局長	丹羽 克寿
委 員	南信教育事務所飯田事務所	所長	石井 克之
委 員	飯伊市町村教育委員会連絡協議会	副会長	北澤 正光
委 員	長野県経営者協会飯田支部	支部長	木下 博隆
委 員	飯田青年会議所	理事長	久保田 大樹
委 員	飯田市社会福祉協議会	会長	中島 武津雄
委 員	飯田市公民館	館長会代表	笹 行夫
委 員	学識経験者	信州大学大学院 特任教授	山浦 貞一
委 員	学識経験者	社会教育委員	田添 莊文
委 員	飯田市PTA連合会(旭ヶ丘中学校)	PTA 会長	矢沢 武彦
委 員	幼稚園・保育園(川路保育園)	公立園長会長	宮崎 千保子
委 員	飯田市校長会(松尾小学校)	代表	城田 純子
委 員	飯田市校長会(旭ヶ丘中学校)	代表	大澤 忠史
委 員	市内高等学校長(飯田 OIDE 長姫高等学校)	代表	松原 均
委 員	飯田短期大学	准教授	田中 洋江
委 員	飯田市産業経済部	部長	清水 秀敏
事務局	飯田市教育委員会	教育次長	秦野 高彦
事務局	〃 学校教育課	課長	福澤 好晃
事務局	〃 学校教育課	学校教育専門幹	今井 栄浩
事務局	〃 学校教育課	教育支援係長	麦島 隆
事務局	〃 学校教育課	教育企画係長	倉田 奨
事務局	〃 学校教育課	教育企画係	平澤 里奈
事務局	〃 生涯学習・スポーツ課	課長	伊藤 弘
事務局	〃 生涯学習・スポーツ課	補佐兼社会教育係長	本島 秀勇
事務局	〃 生涯学習・スポーツ課	社会教育係	矢澤 健
事務局	〃 生涯学習・スポーツ課	社会教育係	樋口 晋哉
事務局	〃 生涯学習・スポーツ課	社会教育係	片桐 和子

12年間の取組 教育ビジョン 地育力による 未来をひらく 心豊かな人づくり

4年間の取組 (令和3～6年度) 3つの重点目標 12年間の飯田市の教育ビジョンと、教育振興の6つの方針、さらには取組の12の柱を踏まえて、令和3年度から令和6年度までの中期4年間に、重点的かつ組織横断的に取り組む「重点目標」を以下のように掲げます。

重点目標 1 “結いの心”に根ざす教育を実践し、豊かな心とリニア時代を生きる力を育む

アクションプログラム

■ 学力保障・学力の向上

お互いを認め合い、安心して学べる学級づくりを目指し、子どもたちの学力の保障・向上と不登校対策のため、小中連携・一貫教育を進めます。また、コロナ禍への対応を含め、全ての教育活動を通じてICTの活用を推進します。

項目	現状(R1)	目標(R6)
全国学力・学習状況調査における小学校国語、算数、中学校国語、算数の全国平均との比較	小6国語○ 小6算数○ 中3国語△ 中3数学△	小6国語○ 小6算数○ 中3国語○ 中3数学○
自己肯定感(自分の良いところ)全国平均差	小-1、中-3	全国平均

* 全国平均以下の状況。令和6年度までに全国平均を目指します。

■ 温かな人間関係づくりと誰ひとり取り残さない教育や支援

日常生活における自他の尊厳を尊重する態度を育成し、互いを認め合える温かな人間関係づくりと個に寄り添った誰ひとり取り残さない教育や支援を推進します。

項目	現状(R1)	目標(R6)
不登校在籍比	小 0.87% 中 3.91%	前年度以下

* 不登校児童をなるべく増やさないよう前年度以下の在籍比を目指します。

■ 飯田コミュニティスクールを活かした地域・学校・家庭での教育の推進

飯田コミュニティスクールを活かし、地域・学校・家庭がそれぞれ当事者意識を持って協働し、地域ぐるみで子どもを育てる環境づくりを進めます。

■ 食育の推進

学校給食の地産地消、有機食材の導入拡大と、献立に地域の旬の食材や郷土食、行事食を取り入れる工夫に努めながら、学校給食を活用した食育に取り組みます。

項目	現状(R1)	目標(R6)
飯田下伊那産野菜主要10品目使用率	54.1%	55.0%

* 地場産物使用割合全国平均26.0%(H30)。現状も高いため現状維持を目指します。

■ 子どもの読書活動の推進

子どもが読書を楽しみ、感性や言葉を豊かにし、想像力、表現力や情報活用する力をつけられるよう、乳幼児期から発達段階に応じて読書体験の充実に取り組めます。

項目	現状(R1)	目標(R6)
授業以外に1日10分以上読書をしている児童生徒割合(県:小6-69.0%、中3-57.1%)	小6-67.1% 中3-55.6%	県平均以上

* 日常的に本に親しんでいる児童生徒の割合。

現状は全国平均以上ですが、全国平均より高い県平均以上を目指します。

■ 児童の放課後の居場所づくり

就労等で放課後保護者等が不在となる家庭の児童の居場所づくりのため、児童支援員の確保や適切な配置に努めるとともに、4年生以上高学年の受入希望にも対応できる組織・体制づくりを進めます。

■ 少子化における児童生徒の教育環境の充実に向けた取組

児童生徒の減少や学校施設の老朽化が進んでいる中で、地域に根差した飯田らしい教育環境が展開され、将来にわたり子どもたちが主体的に学び合う場とするためには、どのような学校がよいのか、子どもたちの未来のため、みんなで考えていきます。

■ 防犯・通学路の安全対策・環境整備・気候変動対応

児童生徒が安心・安全に学校生活を送ることができるよう、通学路安全対策や環境整備を進めるとともに、気候変動に適應した校外活動に取り組めます。

重点目標 2 豊かな「学びの土壌」を活かした「学習と交流」を進め、飯田の自治を担い、可能性を広げられる人材を育む

アクションプログラム

■ 住民の主体的な学びあいの支援

住民の自治の力を高め、地域の担い手を育むため、住民の主体的な「地域の自然や文化などの地域資源を生かした学習や地域の課題解決に向けた学習」を支援します。

項目	現状(R1)	目標(R6)
住んでいる地区や飯田市の自然、歴史、文化等に誇りや愛着がある人の割合	69.2%	74.3%

* 市民意識調査の数値です。前期の基準年(H27)数値を目指します。

■ 子どもの主体性、創造性、社会性、協調性、課題解決力などを育む学習の展開

LG(地域・地球)飯田教育の理念や地育力を活用した環境学習、ふるさと学習、体験学習等を幼児期から高校まで体系立て、子どもの主体性、創造性、社会性、協調性、課題解決力などを育み、多様な自己実現の可能性を広げます。

項目	現状(R1)	目標(R6)
地域や社会を良くするために考えることがある割合(県:小57.0%、中43.9%)	小55.9% 中40.0% 高新規	県平均以上

* 現状は全国平均以上ですが、全国平均より高い県平均以上を目指します。

重点目標 3 文化・スポーツを通じて人と地域の輝き・うるおいをつくる

アクションプログラム

■ 「人形劇のまちづくり」の推進

人形劇の公演・創造活動を楽しみ、その魅力を発信するとともに、「人形劇のまち」を改めて強くアピールし、国内外との交流を進めます。

項目	現状(R1)	目標(R6)
市内で上演した人形劇公演数	498	500
人形劇で交流した国内外の交流数(回)	11	15

* コロナ禍の後に交流を再開し、現状を超えることを目指します。

■ 文化芸術の鑑賞や市民の主体的な文化芸術活動の展開を支援

多様な文化芸術の鑑賞機会や文化芸術活動の取組の充実を進めます。

項目	現状(R1)	目標(R6)
文化活動を1回以上行っている人の割合	63.9%	65.0%

* コロナ禍で抑えられた活動が再開し、これまでの最高値(64.3%)を超えることを目指します。

項目	現状(R1)	目標(R6)
社会教育団体(文化・芸術・芸能活動)申請登録会員延べ人数	7,692	8,000

* 登録人数が減少傾向の中、3年前に登録の実績がある目標(R6)の値を超えることを目指します。

■ 新たな文化芸術活動の拠点づくり

飯田市の文化芸術活動の拠点施設としての新文化会館の建て替えに向けた検討を進めます。

■ 市民のスポーツ活動・コミュニティづくりの支援、スポーツイベントの開催

市民の様々なスポーツ活動を支援し、発信するとともに、スポーツや運動習慣の定着と、スポーツを通じたコミュニティづくりを進めます。また、飯田市の特徴を活かしたスポーツイベントを開催します。

項目	現状(R1)	目標(R6)
成人の週1回以上スポーツに親しむ人の割合	48.2%	—
子どもの体力・運動能力調査におけるA・Bの割合	38.5% (全国43.2%)	全国値以上

* 「スポーツ」自体の定義や、スポーツ文化の浸透度合いなど、市民意識調査の項目をR3に見直し予定。それに伴い、目標値も適切に設定。

* 全国平均以下の状況。令和6年度までに全国平均を目指します。

■ 競技スポーツ人口の拡大と競技志向の向上

トップアスリートの指導やプレーに触れる機会、スポーツ指導者の育成などを通じて、競技スポーツ人口を拡大し競技志向を高めます。また、地域でトップアスリートを育てることができ体制を目指します。

■ 中学生期の多様なスポーツ環境の充実

全市型競技別スポーツスクールなど中学生期におけるスポーツの多様な選択肢を充実します。

項目	現状(R1)	目標(R6)
全市型競技別スポーツスクールの種目数	13(R2)	16

* 多種のスポーツに触れる環境として、スポーツ協会とともに種目数を増加させます。

■ スポーツ施設の整備、サービス向上

誰もが安全で快適に利用できるスポーツ施設の整備やサービスを向上させます。

■ 社会教育施設の整備、サービス向上

誰もが安全で快適に利用できる社会教育施設の整備やサービスを向上させます。

地育力で私と地域の未来をひらく「飯田型キャリア教育」の全体像（イメージ）

R5年度 飯田市教育委員会

教育ビジョン：地育力による 未来をひらく ころ豊かな人づくり

*地育力：飯田の資源を活かして飯田の価値と独自性に自信と誇りをもつ人を育む力

変化の激しいこれからの時代を生き抜くために、地球規模で物事を考える広い視野と、生まれ育った地域に誇りと愛着を育むことが大切だと考えています。「地育力」を活用したふるさと学習や体験的な学びを軸とした「飯田型キャリア教育」を幼児期から高等教育期まで、発達段階に応じて切れ目なく推進していきます。「飯田型キャリア教育」では、自らの生き方を主体的に切りひらき、人とつながりあっていくための力を育み、ふるさとを心根に、未来の地域の担い手や地域を支える人（ふるさとのよさに気づき、自ら関わろうとする態度をもつ人）づくりを目指します。

飯田型キャリア教育で育みたい4つの力

- 人とつながる力(結いの力) 例：自己表現力、コミュニケーション能力、リーダーシップ、チームワークなど
- 自分を見つめ夢や希望を描く力(みつめる力) 例：自己の役割理解、前向きに考える力、忍耐力、主体性など
- 課題をもって最後までやり抜く力(うごく力) 例：情報収集・課題発見力、計画力、実行力、評価・改善など
- 職業や仕事について興味や関心をもつ力(みとおす力) 例：学ぶこと・働くことの意義や役割、多様性の理解など

ふるさとのよさに気づき、自ら関わろうとする態度をもつ人

【事例③】竜峡中学校

■「ふるさと竜峡を愛し、自ら考え、たくましく生きる子どもの育成」を目指し、全校で「地域と共に歩む活動」に取り組む。

- ・1年「農業体験」「ふるさと学習」…3地区の文化を「知る→体験→納得」し、地域への理解や愛着を深めていく。
- ・2年「職場体験」…「やりがいとは体験しないとわからない」職場の方とのつながりから、職業観の広がりや深まりを実感
- ・3年「福祉体験」
- ・全校「キャリアフェスティバル」…地域への参画・貢献への意識が高まる生徒たち。



【事例①】殿岡保育園

■飯田市の自然を生かした

「いいだ型自然保育」

- ・ツマグロヒョウモンとの出会う、子どもの気づきやつぶやきから広がる活動。子どもたちの知りたいという意欲を大事に、命の大切さや神秘性を考えられる子が育つ。



■遊びや地域の方と触れ合いで、たくさん心と身体を動かす。

- ・困った時は「田んぼのおじさん」に聞こうとする子どもたち。
- ・保育士が地域の自然環境にアンテナ高く、子どもの成長を見守り記録していく。

※左下は保育園・認定こども園の実践を示し、右上がりのキャリア形成上に小学校や中学校のキャリア教育実践があり、右上が高等学校・高等教育機関の実践を表す。

子どもたちが自分事として取り組み、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりして、主体的に学びに向かう力を育み、自己実現につなげる。

【カリキュラム・マネジメント】

地域の魅力や子どもの実態を把握し、教育課程を教科等横断的な視点で組み立て、評価・改善しながら系統的・組織的に地域人の育成を図る。

- ◆総合的な探究の時間(質の高い探究)
- 地域協働型探究活動(地域人教育)
 - ・社会的な課題を仲間と協働解決に向け取り組む
 - ・探究過程の高度化、探究の自律的な学び
 - ・科目「課題研究」、「探究の時間」等



<探究活動>
地域を学びのフィールドにした学習「地域人教育」を展開。住民と一緒に地域の課題や魅力を発見し、解決と魅力発信をしている。

- ◆総合的な学習の時間 特別活動(キャリア教育の要)
- 職場体験学習(事前事後学習)、福祉体験、キャリアフェス、起業体験、生徒会活動等

- 「小中連携・一貫教育」…H23年度スタート
 - ・義務教育9年間を見通した連続した学び
- 「飯田コミュニティスクール」…H29年度設置
 - ・地育力を活用した地域と保護者の力を結集

キャリア・パスポート

<職場体験・総合学習>地域参画

地域とつながり、関わる

[地域素材の視点:○○○●●]

- ◆生活科 総合的な学習の時間 特別活動(キャリア教育の要)
- ふるさと学習、宿泊体験活動、職場見学、児童会活動、環境学習等

中学校区カリキュラムメンター(キャリア教育担当者)

探究アドバイザーとの出会い(地域の先生)

<ふるさと学習> 体験の言語化

地域について学び、考え、伝える

[地域素材の視点:○○○○●]

- ◆遊び 動物飼育、作物栽培、自然保育

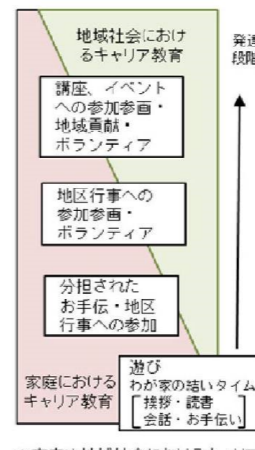
園小連携推進委員会

<遊び・生活科> 遊びの学び化

地域を散歩する・体験する・浸る

[地域素材の視点:○○○○○]

知的好奇心「なぜ? どうして?」



地域・社会(地域をつなぐ)

《例》地域学習素材から発展する探究事例：○蝶に興味(園)～○蝶の採集や生態(調べ学習)[小]～○農業体験(自然に携わる方との出会い)[中]～○環境問題の調査・提言[高]～スパイラルに進行していく

園・小・中・高が一貫した理念で飯田型キャリア教育を推進し、産学官が協働することで持続可能な社会づくりの担い手である人材育成につなげる。



各学校段階におけるキャリア教育推進の主なポイント (文部科学省・長野県教育委員会)

幼稚園 保育園 こども園
人格形成の基礎となる豊かな心情、物事に自分から関わろうとする意欲や健全な生活を営むために必要な態度等を養う

小学校
働くことの大切さの理解、興味関心の幅の拡大等、社会性、自主性自律性、関心意欲等を養う

中学校
社会における自らの役割や将来の生き方、働き方等を考えさせ、目標を立てて計画的に取り組む態度を育成し、進路の選択・決定に導く

高等学校
生涯にわたる多様なキャリア形成に共通して必要な能力や態度を育成し、これを通じて勤労観・職業観等の価値観を自ら形成・確立する

高等教育(大学・短大・専門学校)
学校から社会・職業への移行を見据えて、自らの視野を広げ、進路を具体化し、それまでに育成した社会的・職業的自立に必要な能力や態度を伸張・深化させる取組を教育課程の内外で充実

【事例⑤】飯田女子短期大学

■家政学科家政専攻デザイン有志学生
ひさかた和紙の方とのコラボレーション
・「ひさかた和紙」に伝統的な技法摺込(すりこみ)でランチョンマットを製作。様々な場所で人とつながり飯田の魅力を発信していく。小学生とも交流。



【事例④】飯田 OIDE 長姫高等学校

■「地域人教育」として商業科3年駅前班による「XR 襲来 スマートグラスを用いた飯田市への移住・定住促進に関する研究」
・問い→仮説→調査実証→考察→次の問いという研究手法で地域課題に取り組む。



【事例②】丸山小学校

■地域と獅子舞(3年)
・地域の「羽場大獅子」「東野大獅子」について「見て、聞いて、触れて」地域の方と関わり本物に触れる。運動会や文化祭で発表、丸山保育園との獅子舞交流等で、地域の歴史や文化を学び、郷土に誇りを持ち、自己の成長や思いやりの心が育っていった。



■身近な人の仕事調べ(6年)
・家族の仕事調べ、実際に職場体験を通して新たな職業観をもち、家族への感謝や自己の生き方を考えるようになった。

※ 使用している事例は令和4年度の取組です。

「飯田型キャリア教育」の取組の経過

R5

年度	研究内容等（○：義務教育 ■：高等学校等）	取組の経過
18 19 20	○キャリアスタートウィーク推進地域指定（文科省）を受ける ・飯田西中学校が5日間の職場体験に取組む ※H17～キャリアスタートウィーク推進事業（文科省） ○飯田西中学校以外の中学校が3日間以上の職場体験に取組む	【中学校での「職場体験学習」の定着期】 飯田西中・丸山小をモデル校としてキャリア教育の推進 ○中学校の職場体験からスタート 飯田西中学校が職場体験に取組み、市内全中学校が続く
21 22 23 24	○飯田市のキャリア教育研究指定校制度を設け、小・中学校のキャリア教育にも取組む ・[研究指定校] 丸山小・飯田西中…H25まで ○小中一貫のキャリア教育の研究指定（文科省）に取り組む ●[研究協力校] 丸山小・飯田西中 ■学輪 IIDA 設立[19大学・43名] ○教科等におけるキャリア教育の研究 ・小中学校におけるキャリア教育年間指導計画の作成 ○キャリア教育における小・中・高の連携 ・「ふるさと学習」を中核にした「キャリア教育年間指導計画」の作成[モデル＝丸山小・西中] ■地域人教育スタート[飯田 OIDE 長姫高校商業科]	【小中一貫に向けたモデル実践・研究期】 ○キャリア教育のプラットフォームを構築しキャリア教育スタート ・飯田市キャリア教育推進協議会、キャリア教育研究委員会、キャリア教育小中連携協議会の設置 対象を小学校まで拡大し、職場体験に留まらずキャリア教育全般を推進 ○「ふるさと学習」を中核にすえた小中学校の年間指導計画作成 □地域人教育は2人の商業科教諭の熱意で誕生
25 26 27 28 29 30	○「ふるさと学習」を中核にキャリア教育の推進 ・年間指導計画に基づいた実践と検証 ・小学校キャリア教育担当職員研修会の実施 ○全小中学校でキャリア教育指導計画作成 ○キャリア教育年間指導計画を基に小中学校での実践が始まる ・各中学校区の専門部会等で小中9年間見通した指導計画を研究 ○第2次飯田市教育振興基本計画がスタートし、L G（地域・地球）飯田教育の視野から、ふるさと学習とグローバル教育の一体的な推進を中核に据えた義務教育9年間の系統的なキャリア教育に取組む ■市内高等学校長との意見交換会スタート（年2回） ○全中学校区で、小中一貫した9年間のキャリア教育指導計画を作成	【普及・実践期】 市内全小中学校においてキャリア教育を推進 ○キャリア教育指導計画の作成 「ふるさと学習」を中核としたキャリア教育指導計画を作成 ○L G飯田教育がスタート 「ふるさと学習」と「グローバル教育」を一体的に推進するキャリア教育の出発 ○小中一貫したキャリア教育指導計画 全中学校区で9年間を見通したキャリア教育指導計画を作成
1 2 3 4 5	○小中連携・一貫教育で取り組む系統的なキャリア教育の実践の積み重ねと修正 ○学校と地域・社会がつながる飯田型キャリア教育切れ目ないキャリア形成の見える化 ■市内高等学校長との懇談会（年3回：教育委員会） ○飯田版キャリアパスポート共通ページの作成 * 飯田型キャリア教育の推進体制を再構成し、幼児期から高等教育期までの推進をスタート ○■キャリア教育に関わる意識調査実施（高校） ■高等学校では、総合的な探究の時間が始まる * 幼児期から高等教育期まで一貫して推進していくために、高等教育機関も推進体制に位置付ける	【連携・協働期】 ○飯田型キャリア教育の資質・能力の見直し（文科省が例示する基礎的・汎用的能力と整合） ○飯田型キャリア教育（人材育成プログラム）の全体像の提案～園・小・中・高・大～ ◇県・上伊那と連携し「伊那谷 de キャリア教育」の推進（リニアバレー構想実現プランの一つ） 幼児期から高等教育期までつながる取組で推進

コロナ禍

令和4年度 飯田市キャリア教育推進協議会のまとめ

第1回 6月27日(月)

- 1 令和4年度の基本方針確認と具体的な取組の確認
- 2 協議
 - (1) 幼児期から高校まで切れ目ない学びを大事に、関連する組織が連携しながら飯田型キャリア教育を推進する。
 - (2) 飯田型キャリア教育を推進するための具体的な取組として、キャリア教育研究委員会、高校・地域が連携した研究会、キャリア・パスポート等、それぞれ主管する機関が主体的に取り組み、キャリア教育全体の事業調整を生涯学習・スポーツ課が担う。
- 3 今後のキャリア教育を推進していく上でご意見いただいたこと
 - (1) 高等教育機関(短大、専門学校)との連携について
 - (2) 若年層に向けたキャリア教育について
 - (3) 日常的な教育活動の中でのキャリア教育の実践について
 - (4) 家庭教育との連携について
 - (5) 産官学(高校と企業、市の基本方針)との連携について
 - (6) 13町村との連携について

第2回 2月24日(金)

- 1 令和4年度 事業報告
 - (1) 会議開催について
 - (2) 発達段階をつなぐキャリア教育の取組
 - (3) 令和4年度飯田市キャリア教育推進フォーラムの実施
 - (4) 広域的なキャリア教育の取組
 - (5) その他
- 2 協議
 - (1) 令和4年度飯田市キャリア教育推進フォーラムの内容について
 - (2) その他の事業について
 - (3) 各業界や団体等におけるキャリア教育や地域人育成等の現状や課題
- 3 次年度に向けてのご意見いただいたこと
 - (1) 検証として推進体制を見返す
 - (2) 主体性や自分で決めることを大事にした取組を進め、体験で何を学んだかを振り返りこと、地域に返す学習展開、キャリア・パスポートの活用のあり方を検討していく
 - (3) 育みたい4つの力を大事にしながら、日常の学校生活の中でのキャリア教育や、この時代の「働く」ことについて考えたい
 - (4) 地域と学校が繋がり、地域の中でのキャリア教育をどう進めていくか

令和5年度 飯田市キャリア教育の推進について

1 ねらい **教育ビジョン：地育力による 未来をひらく ころ豊かな人づくり**

*地育力：飯田の資源を活かして飯田の価値と独自性に自信と誇りをもつ人を育む力

変化の激しいこれからの時代を生き抜くために、地球規模で物事を考える広い視野と、生まれ育った地域に誇りと愛着を育むことが大切だと考えています。

「地育力」を活用したふるさと学習や体験的な学びを軸とした「飯田型キャリア教育」を幼児期から高等教育期まで、発達段階に応じて切れ目なく推進していきます。

「飯田型キャリア教育」では、**自らの生き方を主体的に切りひらき、人とつながりあっていくための力を育み、ふるさとを心根においた未来の地域の担い手や地域を支える人**（ふるさとのよさに気づき、自ら関わろうとする態度をもつ人）づくりをめざします。

*「飯田型キャリア教育」は「地育力で私と地域の未来をひらく教育」と説明しながら推進します。

2 地育力で私と地域の未来をひらく「飯田型キャリア教育」で育みたい4つの力

【文科省が例示する基礎的・汎用的能力】

【4つの力：飯田型キャリア教育で目標とする資質・能力】

■人間関係形成・社会形成能力

(かかわる力)

■自己理解・自己管理能力

(みつめる力)

■課題対応能力

(うごく力)

■キャリアプランニング能力

(みとおす力)

■人とつながる力（結いの力）

例：自己表現力、コミュニケーション能力、リーダーシップ、チームワークなど

■自分を見つめ夢や目標を描く力（みつめる力）

例：自己の役割理解、前向きに考える力、将来を描く力、忍耐力、主体的行動など

■課題をもって最後までやり抜く力（うごく力）

例：情報の理解収集、課題発見力、計画力、実行力、評価・改善など

■職業や仕事について興味や関心をもつ力

(みとおす力) 例：学ぶこと、働くことの意義や役割の理解、多様性の理解、将来設計、選択、行動と改善など

**ふるさとのよさに気づき、
自らかかわろうとする態度をもつ人**

【長野県が目標とする資質・能力】

自分の人生を構想する

『キャリアデザイン力』の育成

・・・キャリアプランニング能力をベースに、1度しかない自分の人生について、職業を通してどう社会と関わり、どう生きていきたいのかを、構想し続けていく力

社会的・職業的に自立した人間の育成

長野県キャリア教育ガイドライン R2.3 改訂

*令和2年度まで「飯田型キャリア教育」では、5つの力を育むように示されていたが、文科省の例示にあわせて4つの力に整理し、「ふるさとのよさに気づき、自らかかわろうとする力」は4つの力を支え、めざす姿とした。

3 地育力で私と地域の未来をひらく「飯田型キャリア教育」推進の方針

- (1) 子どもたちが地域の人や資源と関わりながら、実体験をともなう協働的な学びを行える場をつくる。家庭・地域と連携を強め、社会全体で子どもの学びの機会を支え、地域も磨き続けていく。
- (2) 子どもたちの発達段階に即し、幼児期から高等教育期まで一貫した理念で子どもを育てる。発達段階に応じた体系的な学びを、地域、事業所、教育・福祉、行政が目的を共有し、それぞれの役割を発揮しながら協働して支える。

<ふるさと学習等の体系的な学び>

地域を散歩・体験・浸る⇒地域を学び・知る⇒地域を考え・伝える⇒地域のために行動・貢献

- (3) 行政は、子どもたちの学びを支える多様な人や資源をつなげるコーディネート機能を果たす。

4 各学校における方策の留意点

- (1) 地育力を活用した「ふるさと学習」を中核に、小1～中3を見通し、小中一貫したキャリア教育年間指導計画に沿って実践を重ね、園とのつながりも含めて改善を図っていく。教師がルールを引きすぎず一人一人の願いや主体性を大事にし、体験が「探究的な学び」となるように展開を工夫したい。学んだことを地域に発信する等、表現活動を大切にするとともに、体験を振り返る時間をとり自分を見つめ(内面化)、友と共有しながら、自分の成長を確認したり、将来へ向けての自分のあり方を考えさせていく。
- (2) 各学校では特別活動や教育活動全般を通じて「自己理解」「他者理解」「役割理解」の視点から取り組み内容を整理していく。特に地域の人や資源と関わる内容を大事にする。それぞれの場面で「意思決定」する場面を繰り返し位置づけ、目指す資質・能力（4つの力）を育てていく。
- (3) 小学校から高等学校までキャリア教育に関わる諸活動について、自らの学習記録、自身の変容や成長を振り返り、地域の方・活動の伴走者との関わり等を端的にキャリア・パスポートに綴り、未来の自分を想像し続けていく。

参考

- 【自己理解】…自己の成長を実感することで、自分の得意なこと、好きなこと、努力すべき点を理解する
- 【他者理解】…協働することの意義を実感することで、人間の生き方の多様性と可能性を理解する
- 【役割理解】…社会（集団）の中の自分や他者の役割を実感することで、職業（仕事）を通して社会と関わるのが、自分らしく生きる人生につながることを理解する

長野県キャリア教育ガイドライン R2.3 改訂

5 地域・社会教育におけるキャリア教育

- ・地域行事や講座、ボランティア活動においても、「自己理解」「他者理解」「役割理解」の視点を意識しながら事業に取組み、「意思決定」を行う場面を大事にし、目指す資質・能力（4つの力）を育てていく。

6 家庭におけるキャリア教育

- ・「わが家の結いタイム」（「あいさつ」「お手伝い」「会話」「読書」）とも連携していく。

7 会議開催について

(1) 飯田市キャリア教育推進協議会

- ① 第1回 令和5年5月29日(月)
 - ・キャリア教育に関する基本的な方針と具体的な取組について協議
- ② 第2回 令和6年2月26日(月) 予定
 - ・今年度の取組の評価及び検証

(2) 飯田市キャリア教育研究委員会

- ① 第1回 令和5年6月8日(木)
 - ・信州大学教職支援センター 荒井 英治郎 准教授による講義
 - ・飯田型キャリア教育の推進について共通理解し、各校のキャリア教育の推進計画について発表
 - ・学びをつなぐ「キャリア・パスポート」の校種間の引継ぎや活用方法について情報交換
- ② 第2回 令和5年10月6日(金)
 - ・各校からの実践事例報告
- ③ 第3回 令和6年2月13日(火)
 - ・飯田市キャリア教育推進フォーラムを終えて成果と課題を協議

※幼児期から高等教育期まで一貫した理念で子ども・若者を育てるために、今年度より高等教育機関との連携を図り、(1)・(2)の委員として、飯田短期大学と飯田コアカレッジに参加していただき、1年交代に委嘱していく

(3) 園小連携推進委員会

- ① 第1回 令和5年7月20日(木)
- ② 第2回 令和6年 月 日()

(4) 市内高等学校長との懇談

- ① 第1回 令和5年6月14日(水)
- ② 第2回 令和5年 月 日()
- ③ 第3回 令和6年 月 日()

(5) 高校・地域連携研究会

- ・市内各校代表教諭 ・ 昨年は年3回実施
- ・第1回は、飯田市キャリア教育研究委員会に参加し、飯田市や各校の取組を理解し合う
- ・事務局：大学誘致連携推進室 生涯学習・スポーツ課社会教育係

(6) 庁内調整会議 令和5年5月18日(木)

- ・各機関でキャリア教育・人材育成に関わる事業について情報共有

8 その他の取組

(1) 小中における取組

- ・小中連携・一貫教育推進委員会において、園小中高大の連携が重点の一つにあり、めざす子ども像に向けて小中一貫カリキュラムに沿って実践を重ね、ふるさと学習での育ちを共有したり、カリキュラムの修正をおこなったりする。

(2) 「結いジュニアリーダー」育成講座

- ・市内9中学校より中学2年生13人が年間7回の講座を土曜日に実施。
第1回(6月3日)、第2回(7月22日)、第3回(9月2日)、第4回(10月14日)、
第5回(12月2日)、第6回(1月13日)、第7回(2月10日)

(3) 高校生への取組

① 高校生意識調査の実施

- ・12月にキャリア教育に関わる3つの質問について、南信州8高校で実施し経年変化をみていく。
※ 地域への愛着度については、全国学力・学習状況調査の調査項目にないので、小学校6年、中学3年生に12月に実施して経年変化をみる

問1 ふるさと(自分の生活している地域)に対して愛着を感じていますか

問2 地域(社会)をよりよくするために、地域課題の解決に関わりたいと思いますか

問3 地域(社会)と自分のつながりや関係を意識しながら、自分の将来について考えることがありますか

② 総合的な探究の時間への支援、社会教育機関からのアプローチ

(4) 学校と企業が連携した取組

① 中学校職場・福祉体験の実施

- ・職場体験実務担当者会 第1回:5月16日(火)、第2回:11月30日(木)
- ・事業所(約700)への照会の回答方法について、今年度より、FAXに加えてながの電子申請サービスでも可能とした。

② 高校と地元企業をつなぐ取組について(産業振興課、生・スポ課支援)

9 令和5年度飯田市キャリア教育推進フォーラムの実施

- ・期日:令和6年2月10日(土) 会場:飯田市鼎文化センター
- ・R4年度の内容は、第1部 幼児期から高等教育期までのキャリア教育実践発表
第2部 パネルディスカッション ・テーマ:これからの「飯田型キャリア教育」を考える

10 広域的なキャリア教育の取組

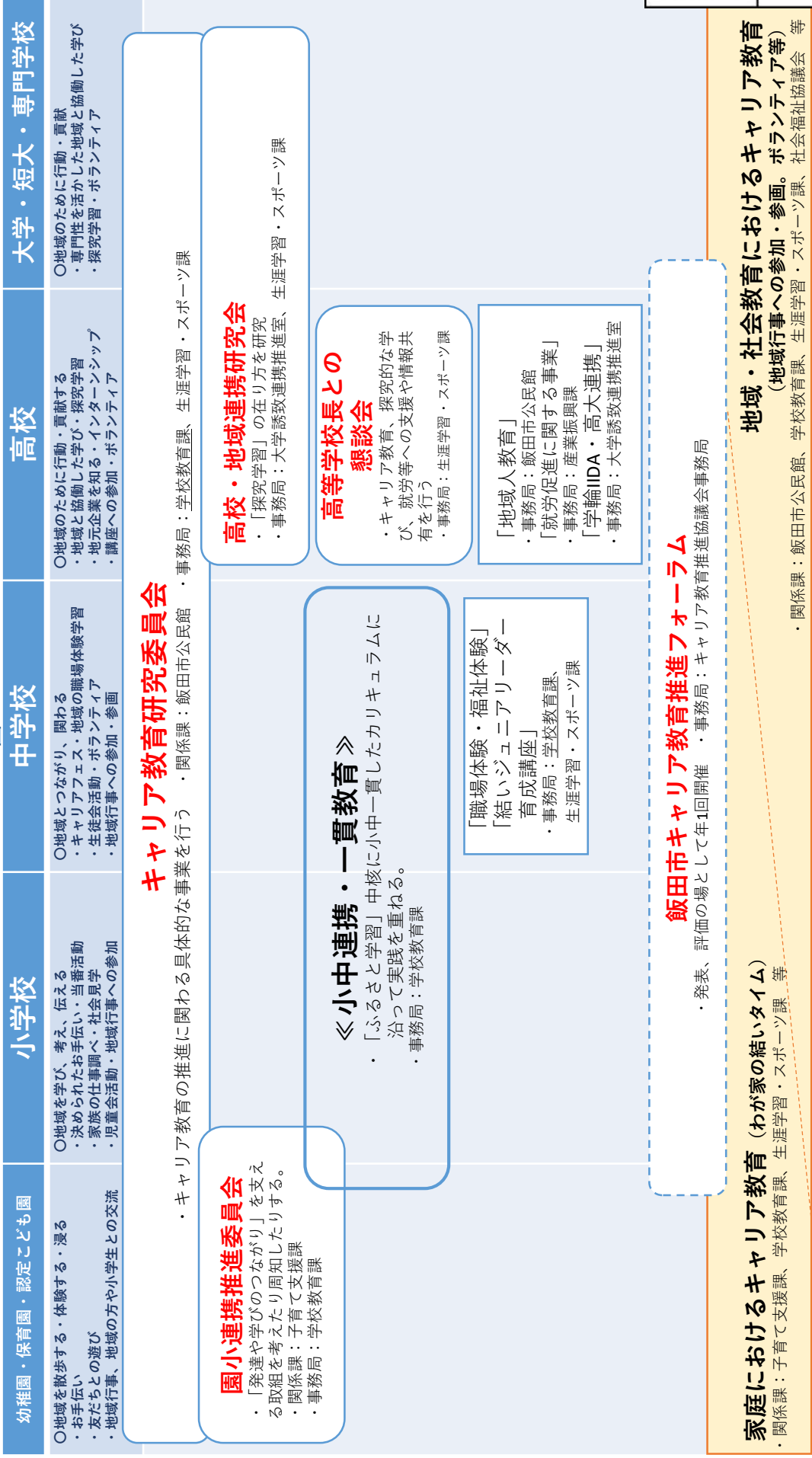
- ・上伊那と南信州が連携してキャリア教育を推進し、飯田市教育委員会も協力している。
- ・「伊那谷 de キャリア教育研修会」を実施予定
期日:令和 年 月 日() 会場:南信州
内容:検討中

R5 「飯田型キャリア教育を軸として、地育力を活かした幼児期から高等教育期まで一貫した地域人育成」の推進体制

飯田市キャリア教育推進協議会

- ・キャリア教育推進に関する
 - ①基本的な方針の策定
 - ②評価及び検証
- ・事務局：生涯学習・スポーツ課、学校教育課

- キャリア教育推進コーディネーター
(教育支援指導主事)
- 生涯学習・スポーツ課に在籍し、キャリア教育全体の事業調整を行う






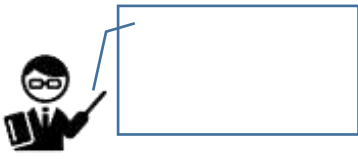

キャリア・パスポートについて

キャリア・パスポートとは

子どもたちが自身の学習状況や、自身の変容や成長を見返し、自己評価できるポートフォリオ（記録）であり、教師が対話的に関わり切れ目なく子どものキャリア形成を支えるもの。小→中→高校へつなぐ。

市内の各中学校区では、令和2年度からキャリア・パスポートの検討に入り、中学校区ごとに形式を決め、試行と活用を始めた。その中で学校からは、中学校区ごとの自由度のある形式を保障しつつ、飯田型キャリア教育のねらいや育む力、小中一貫キャリア教育の全体像など、飯田型キャリア教育の特長が反映される共通ページの必要性が示唆されたので、飯田型キャリア教育の学びをつなぐ「キャリア・パスポート」の共通ページ①～⑥について、昨年度末よりすべての小中学校での活用を始めた。

<下は、共通ページ①～⑥の概要>

<p>① 表紙</p> <p>未来へつなぐ!</p> <p>キャリア・パスポート</p>   <p>〇〇〇学校</p>	<p>② ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飯田型キャリア教育の紹介  <ul style="list-style-type: none"> ・学校からのメッセージ 	<p>③ 飯田型キャリア教育 で育みたい4つの力</p>  <ul style="list-style-type: none"> ■ 結いの力 ■ みつめる力 ■ うごく力 ■ みとおす力
--	--	---

※この2ページは小学生用（低・高）と中学生用を作成

<p>④ 小中一貫ふるさと学習・キャリア教育の指導計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校区ごと（作成済） ・A4サイズ概要版 ・更新された最新版をその都度挿入 ・中学校区で共通理解し、小中共に同じ資料 	<p>⑤ 豊かな学びの土壌を活かした「学習と交流」プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊び→ふるさと学習→職場体験→探究活動へとつながる全体像 <p>●本日の資料3の中央部分「<u>飯田型キャリア教育構築のイメージ</u>」</p>	<p>⑥ 地域とつながる私</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校6か年…A4サイズ 1枚 ・中学校3か年…A4サイズ 1枚 <table border="1" data-bbox="1061 1601 1412 1668"> <tr> <td>活動</td> <td>コメント</td> </tr> </table> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方のコメントをどのように残すか。（記録するか） ・小・中・高のつながりや活用について 	活動	コメント
活動	コメント			

※この3ページは飯田市の特長的なページ

地域とつながる「わたし」



このページには、自分自身の振り返りと活動に関わった方のコメント（例えば、活動に関わった方の実際の記録やその方が発した言葉「心に残ったことば、嬉しかったことば等」）を記入し、地域とつながる「わたし」について整理しましょう。

学年	学習活動		「振り返り」と「地域の方のコメント」 / 評価(◎、○、△で)
1 学 年	自分自身		
	活動の伴走者		
評価 内容	・地域（社会）と自分のつながりや関係を意識しながら、自分の将来について考えましたか		
	・地域（社会）をよりよくするために、地域課題の解決にかかわりたいと思いますか。		
2 学 年	自分自身		
	活動の伴走者		
評価 内容	・地域（社会）と自分のつながりや関係を意識しながら、自分の将来について考えましたか。		
	・地域（社会）をよりよくするために、地域課題の解決にかかわりたいと思いますか。		
3 学 年	自分自身		
	活動の伴走者		
評価 内容	・地域（社会）と自分のつながりや関係を意識しながら、自分の将来について考えましたか。		
	・地域（社会）をよりよくするために、地域課題の解決にかかわりたいと思いますか。		

評価 / ◎：当てはまる ○：どちらかといえば、当てはまる △：どちらかといえば、当てはまらない

令和5年度 職場・福祉体験について

○職場・福祉体験は、社会(地域)に出て体験的な活動を通して、自ら設定した(問い)を追究し、自分が大切にしたい生き方を発見しようとする。

○経験と語彙が圧倒的に豊富な大人とキャッチボールができる生徒に育てることが、これからの時代を生き抜く力の獲得につながる。

○学習指導要領では、特別活動を要としつつ社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるようキャリア教育の充実が明記された。職場・福祉体験の意義や効果については実証されているので、飯田市として全中学校で実施ができるよう事業所と学校をつなげるコーディネートを行う。

実施までのスケジュール



- ①② 希望日程、人数等を確認、各学校から報告してもらいます。(1月)
- ③ 調整が必要な学校へ連絡し、学校同士で日程を調整していただきます。(1月～2月)
- ④ 調整した日程を報告してもらい、全中学校の希望日程を確定します。(2月末まで)
- ⑤ 事業所へ中学校の希望日程での受入れ可否、受入れ可能人数、時間、条件等を調査。(3月)
- ⑥ 事業所から受け入れについての回答をいただきます。(4月初旬まで)
- ⑦ 事業所の回答を各中学校へ報告します。(4月下旬)

現在、ここまで済

- ⑧ ⑦で報告した内容をもとに、体験事業所・体験人数を決定し報告してもらいます。
(7月実施：5月24日〆切、8月実施：6月27日〆切、10月実施：8月25日〆切)
- ⑨ 教育委員会から事業所へ体験希望人数を報告し受入れ依頼を行います。
(体験1か月前(7月実施：6月初旬、8月実施：7月初旬、10月実施：9月初旬))
- ⑩ 教育委員会から事業所へ依頼後、学校から事業所へ受入れ依頼、履歴書の送付、電話や訪問による詳細な打ち合わせ等をしてもらいます。(実施日まで)

令和5年度「結いジュニアリーダー（15期生）」育成講座の計画(案)

1 講座の目的

- (1) 市内9学校2年生の代表者が集まり交流することを通して、中学校間のつながり「結い」をつくり出していきます。また、各校の特色ある活動（生徒会活動等）の情報を交換して、自校の魅力を見出し、自治活動に参画する意欲を持ちます。
- (2) 私たちにもできるSDGs（持続可能な開発目標）を学んだり、情報交換したりしながら、学校や地域の課題に対してできることを形にしていきます。また、地域や公民館主事の皆さんとの交流会を企画し、持続可能な社会について考えます。
- (3) 講座の流れは「出会い／課題設定／探究／発信」と進みます。ジュニアリーダーの皆さんは、学校や地域の様々な課題を発見・設定し、自ら調査したり、仲間と協働的な取組を実践したりして、課題解決（ゴール）に向けて活動します。



2 講座の推進計画案

回	期 日	会 場	過 程	活動内容（案） <small>●詳細は育成講座で立案</small>
1	6月 3日 (土) 9:00～12:00	市役所 C211	出 会 い ／ 課 題 設 定	<ul style="list-style-type: none"> ○オリエンテーション（講座の目的、年間計画など） ○自己紹介（ジュニアリーダーとしての目標）、学校紹介 ○学校や地域に中で感じている課題について意見交換する ○SDGsの17の目標を知り、意見交換する ○（育成講座の）ゴールのイメージについて意見交換する
2	7月22日 (土) 9:00～12:00	ムトス ぷらざ		<ul style="list-style-type: none"> ○SDGsの理解を深めるために「うごくる。ゼミナール」とコラボして、“CHANGE FOR THE BLUE”カードゲームを通じて、身近な問題について自分たちができることを考え合う ○講座名と講座テーマの決定、プロジェクトの計画
3	9月 2日 (土) 9:00～12:00	市役所 C211		<ul style="list-style-type: none"> ○SDGsや高校生の地域共同型探究活動「持続可能なまちづくり」の取組を知る（〇〇高校、〇〇企業） ○個やチームのプロジェクトの準備をする
4	10月14日 (土) 9:00～12:00	市役所 または 地域へ	探 究	<ul style="list-style-type: none"> ○まちづくりに関するテーマ別地域探究活動 <ul style="list-style-type: none"> ①〇〇コース ②〇〇コース ○コースを散策し、テーマ別課題解決の情報収集
5	12月 2日 (土) 9:00～12:00	市役所 C211		<ul style="list-style-type: none"> ○まちづくりに関するテーマ別の課題を確認 ○テーマ別の探究活動（意見交換、現地の情報収集など） <ul style="list-style-type: none"> ・2つのグループに分かれ、収集した情報の整理 ・アイデアの決定と提案方法の検討と準備
6	1月13日 (土) 9:00～12:00	市役所 C211	発 信	<ul style="list-style-type: none"> ○「飯田市キャリア教育推進フォーラム」に向けて <ul style="list-style-type: none"> ・発表内容の決定と練習 ・フォーラムの準備（役割分担等）
7	2月10日 (土)	鼎文化 センター		<ul style="list-style-type: none"> ○「飯田市キャリア教育推進フォーラム」の運営（受付、進行等） <ul style="list-style-type: none"> ・午前：リハーサル 午後：会の運営 ○1年間のまとめとして発表をする

令和5年度 キャリア教育(人材育成)に関わる事業一覧

※5月18日(火)に実施した庁内調整会議で情報共有し、協働して取り組む事業などを確認した。

今年度の取組み 事業名	対象			事業のねらい(つきたい力)	事業内容	主管課
	幼保	小中	若高者			
1 しいだ型自然保育	○			<ul style="list-style-type: none"> ESDにおける幼児教育・保育「しいだ型自然保育」の推進。 幼児教育の役割として、人生の土台・価値観・態度の育成を目的とし、「個性的」であり「質の高い」能力をもった大人への道を歩む、「基礎」を身に付け、幼児期からの「環境教育」で地域に密着した体験を通し育む。 	<ul style="list-style-type: none"> 公立保育園(16園)では、それぞれの地域の自然や資源、地域の方々の愛情の中で、感性を磨き、心豊かに人と関わり、主体的にたくましく生きる保育の実践。 NEALリーダー(自然体験活動指導者)養成講座の実施。公立保育園に勤務する全ての保育士が自然体験活動を指導する資格取得を目指す。 	子育て支援課
2 わが家の結いタイム	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 家族がともに時間を過ごし、(あいさつ、会話、お手伝い、読書を窓口に)相互に成長することで生きている力を育む。基本的な生活習慣を身に付けるとともに、子どもを育てる家庭の教育力を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月第三日曜日を「結いの日」と定め、意識啓発活動を実施。 三行詩コンクールの実施し、「わが家の結いタイム」の趣旨の浸透を図る。 パートナー企業認定制度を導入し、企業におけるワークライフバランスの取組と連携し、意識啓発を図る。 年2回の協議会開催し、意見交換を行い取組の更なる普及を図る。 	生涯学習・スポーツ課
3 小中連携・一貫教育「ふるさと学習」、キャリアアパスポート		○	○	<ul style="list-style-type: none"> 地域の資源(歴史、文化、自然、産業等)を地域の人材から学び地域の特性やすばらしさを知る 	<ul style="list-style-type: none"> 自然体験、農業体験や環境学習が主な事業。各校での取組に応じてキャリアアパスポート交付金を交付(今年度予算額2,400千円) 9か年のキャリアの充実、キャリアアパスポートの活用。 園小の関連を図る。 教頭会調査研究プロジェクトでも研究を推進していく。 	学校教育課
4 飯田コミュニケーション推進事業		○	○	<ul style="list-style-type: none"> 「めざす子ども像」を共有し、地域・家庭・学校が連携・協働することにより、地域全体で子どもたちの学びや成長を支える。 	<ul style="list-style-type: none"> 各地域の特色を生かした「家庭教育事業」及び「協働事業」を推進する。(寺子屋・親子体験教室・子どもを語る会等) 	飯田市公民館
5 職場体験・福祉体験		○	○	<ul style="list-style-type: none"> 自己理解や「働くこと」の意義を理解し、自分の人生を構築する様々な生き方や自己実現の可能性を拓ける 	<ul style="list-style-type: none"> 受け入れ事業所と学校をつなぐ。生徒は事前学習、1～3日間職場での実体験、お礼の手紙の送付等実施する。 	学校教育課
6 「結いジュニアリーダー」育成講座		○	○	<ul style="list-style-type: none"> 人と関わる力、地域の魅力を見つけ、主体性、創造性、協調性、課題解決力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学2年生の代表者により年間7回の講座で地域の人とつながり、自分たちができる提案(課題解決)をする 	学校教育課
7 地域人教育			○	<ul style="list-style-type: none"> 地域の歴史・文化・産業を知り、様々な自治活動を支える人々に学ぶ取組を通して、地域への愛着と誇りを持つとともに自身の生き方を考え、主体的に行動できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域に誇りと愛着を持ち、地域に貢献する次世代を担う人材を育む高校生教育として、地域を結び付ける教育活動の支援を実施(R3年度：飯田OIDE長姫高校、飯田風越高校、下伊那農業高校、飯田女子高校) 	飯田市公民館
8 高校生講座			○	<ul style="list-style-type: none"> 地域に誇りと愛着を持ちながら、グローバルな視点で飯田を捉え、飯田を自分の言葉で語れる・誇れる人となり、延いては次世代の飯田を担う人材・社会に貢献できる人材の育成を目指す。 【身に着きたい4つの力】 前に踏み出す力 目の前のことに疑問をもち、考え抜く力 多様な人々とともに、目標に向けて協力する力 地域を理解する力 	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通じて高校生講座を実施する。 前期⇒カンボジアスタディツアー 後期⇒東北スタディツアー ※いずれも定員15名まで 	飯田市公民館
9 雇用対策事業(つなぐ事業)			○	<ul style="list-style-type: none"> 【学生】地元企業や産業、地域で働く人に触れることを通じて、働くことへの意義や尊さを学び、就労意欲を高め、職業選択の幅や自己実現の可能性を拓ける。 【企業】企業の認知度を高め、学生にとつて地元企業が将来の就職先の選択のの一つとなることを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校と連携した取組 各高校と協議し、キャリア教育に関し産業・人材の切り口から必要な支援を行う。 【飯田女子高等学校】 休日や放課後の時間を活用したガイダンスの実施 総合社会(2・3学年)におけるガイダンスの実施 【飯田風越高等学校】 様々な職業分野で働く地域の方を学校に招き、学生が希望する業種(職種)の方の話を聞く事業の実施 【阿南高等学校】 校内事業所説明会の実施 	産業振興課

今年度の取組み 事業名	対象				事業のねらい（つきたい力）	事業内容	主管課
	幼児	小	中高	若者			
10 大学による高校授業支援			○		<ul style="list-style-type: none"> ・学輪IIDAのネットワークを活用し、高校生が大学教授等による講義を受け、大学の学問に触れる機会を提供する。 ・大学講義（幅広い学問領域）に触れ、「学ぶことの楽しさ」「広い世界、様々な価値観」「多面的なもの見方」「自分の可能性」などを感じてもらい、学習意欲の向上や視野の拡大など、豊かな人間力の育成に向けたきっかけづくりを行う。 ・当地域を理解している大学教授等に講義をいただくことで、自分と地域との関係性や、自分の住む地域の価値を再認識する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○大学教員による講義 ○四年制大学のない飯田で、高校生が大学での学びを体験するだけでなく、各高校の特色に沿った大学教員等による講義を実施。飯田とかわりの深い学輪IIDAのメンバーの専門性により、大学の学びを身近な地域と具体的に紐づけ、学問として体系的に伝えることができる。 ○若手研究者との交流と探究学習の支援 ○飯田高校理数科×総合研究大学院大学。若手研究者（大学院生）から研究の面白さや研究活動の意義を高校生に対して熱く語ってもらい、また、高校の課題研究（探究学習）について大学院生、教員等が高校生にアドバイスをを行う交流会を実施。 	大学誘致連携推進室
11 学輪IIDA共通カリキュラム ワールドスタディ			○		<ul style="list-style-type: none"> ・飯田の価値を発見・共有化し、飯田での学びを体系化・見える化する。ことで、飯田や学輪IIDAの魅力を高め、新たな地域学連携、大学間連携の創出や、高校と大学の連携の在り方検討、実践展開等につなげる。 ・大学生が飯田で行うフィールドスタディに高校生が参加し、自らの暮らす地域の取組を学ぶとともに、それらを支える仕組みや地域の人々の思いに触れることで、地元への理解と愛着を育む。また、大学の学びを体感し、大学生の考え方に触れ、自分の将来の進路について考える機会とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○複数高校・大学の連携による飯田を舞台にした学びの機会創出 ○進学・就職を控える高校生にとって飯田を舞台に様々な大学の学生とともに学ぶ機会（フィールドスタディ）を、複数大学の教員の協働により実施。 [令和5年度実施予定] ・ソニーキャリアピタルFS ・地域経済FS ・遠山郷エコ・ジオパークFS 	大学誘致連携推進室
12 大学によるワークショップ （飯田学●大学講座）			○		<ul style="list-style-type: none"> ・高校生や若者が、大学研究者や大学生、地元研究者等との交流を通して様々な知見に触れ、楽しみにしながら興味関心を広げる機会とする ・高校生が学校の枠を越えたつながり（インタースクール的な）ミニやサークル活動）をつくる機会とする ・高校生が大学や大学生との交流を通して、自身の進路や少し先の将来のビジョンを描く機会とする 	<ul style="list-style-type: none"> ・学輪IIDAに集う大学研究者や大学生と飯田市民が連携した学びの場を、年間を通して市内各所（ムトスぶらざや市内公民館等）につくる ・学びの場の形式は、講義やワークショップ、対話型講座など、自由に設計できるものにする ※企画は年度途中に随時進める予定 [令和5年度4月現在企画案] ・☆とクレーター講座 ・フィールドスタディと連動したワークショップ ・若者の語り場 	大学誘致連携推進室
13 創発事業			○		<ul style="list-style-type: none"> ・高校生や若者世代を対象として、交流から学びとなり、挑戦を生み、新たな価値の創発を通して、地域を担う人材の発掘、育成をする 	ムトスぶらざで活動したい団体・個人、何かをやってみてみたい市民・職員などが情報共有の場を通じ、交流と学びを生み出しながら創発につながるような月1回の会議を実施。「ふらっと会議」での考えから創発事業へつなぐ。	飯田市公民館
推進体制	飯田市キャリア教育推進協議会	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・地産力を活用し、幼児期の教育から高等教育期まで、発達段階に応じた体系的に行うキャリア教育の推進を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の協議会開催により、産官学の連携・協働により基本的な方針の策定と評価及び検証を行う ・年3回の研究会開催による園・小・中・高・大のキャリア教育のつながりを意識し、実践取組や探究的な学びについて情報共有しながら自校の実践に活かしていく ・園と小学校をつなぐ「引継ぎシート」活用状況の情報交換 ・キャリア教育の視点からみた園小の接続について実践事例の情報共有、研修会 	生涯学習・スポーツ課
	飯田市キャリア教育研究委員会	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育推進に関わる園～高等教育機関までが連携し、実践研究を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・園と小学校をつなぐ「引継ぎシート」活用状況の情報交換 ・キャリア教育の視点からみた園小の接続について実践事例の情報共有、研修会 	学校教育課
	園小連携推進委員会	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・園と小学校について「発達や学びのつながり」を支える取組について研究し、その推進をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・園と小学校をつなぐ「引継ぎシート」活用状況の情報交換 ・キャリア教育の視点からみた園小の接続について実践事例の情報共有、研修会 	学校教育課
	高校・地域が連携した研究会			○	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育研究委員会のプロジェクトとして位置づける。 ・高校生が自身のアイデンティティとなる地域に心根を置き、自らの人生を切り開いていく力を育むため、高校と地域が連携し、この地域の豊かな資源を効果的に高校教育に活用するための視点・手段・枠組みを研究する。 	<ul style="list-style-type: none"> ＜高校・地域が連携した研究会＞ ・参加者 高校：市内5高校より選出いただいた先生方 大学：学輪IIDAメンバー（アドバイザー） 地域：飯田市教育委員会、飯田市役所の関係部署 ・活動内容 定例研究会：情報共有・研修・意見交換等（年4回程度） 学輪IIDAフィールドスタディを通じたケーススタディ 成果の整理・まとめ 成果報告・共有（各高校での報告、学輪IIDA全体会等の機会に実施） 	大学誘致連携推進室
飯田市キャリア教育推進フォーラム	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児期の教育から高等教育期まで、発達段階に応じた体系的に行うキャリア教育の推進について広く公開し、取組を評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・2月10日（土）開催予定。地産力を活かした幼児期から高等教育期までつながるキャリア教育の実践発表を行い、キャリア教育について考え合う場をつ 	生涯学習・スポーツ課	

＜関連する事業＞		対象			事業のねらい（つきたい力）	事業内容	主管課
		幼保	小中	若高			
今年度の取組み事業名							
1	乳幼児親子学習交流支援	○			<ul style="list-style-type: none"> ・ 養育段階に応じた様々な活動の経験を通じて生きる力の基礎を獲得する。子育ての情報や知識を得たり悩みを共有するとともに親同士の地域内のつながりを形成する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 乳幼児とその親を対象とした学級を、保健課と連携し20地区において実施 	飯田市公民館
2	多様な学習交流支援	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地区の特色を生かした多様で主体的な学びを通して、地域の自治を担う人材の育成を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民が主体的に企画運営する各種学級講座を実施 (市民大学講座・夏期大学講座・伝統芸能継承等芸術文化活動・郷土学習・健康講座・環境・国際教育・平和学習・二十歳の集い等) 	飯田市公民館
3	外国籍児童・生徒のキャリア形成支援	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外国籍児童、生徒がキャリア形成をしていく上でネックになっている日本語習得に向けた支援や、高校進学に関する必要な知識を見直し、保護者にも持ってもらおう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外国籍児童、生徒がキャリア形成をしていく上でネックになっている日本語習得に向けた支援や、高校進学に向けて、児童生徒はもとより、保護者も対象にしたガイダンス等を実施する。 	共生・協働推進課
4	伊那谷と自然と文化人材育成事業		○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「伊那谷と自然と文化」に関する市民研究団体等が、高齢化、在席期間の短期化、会員の減少が課題のため、「伊那谷と自然と文化」に関する研究者等を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会教育関係機関が行っている業務等に関するトークイベントを開催し、興味のある人材を発掘し、育成を行う。 	生涯学習・スポーツ課
5	保育士を目指す高校生等アルバイト雇用			○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 将来の地域で働く保育人材の確保。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育士を目指す長期休暇中の高校生や短大生等を対象にアルバイト雇用を実施。(飯田風越高校、飯田0IDE長姫高校、阿智高校) 	子育て支援課
6	高校生のためのライフデザイン啓発事業			○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進学や就職などの大きな選択を控えている地域の高校生に、進学などで一度はこの地を離れても、将来この地域に戻り結婚して子育てしていくことを若い世代に意識づけ、今後の生き方を考えてもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭科授業の中で、担当教諭と検討しながらテーマを設定し、授業の中で講座を実施する。 	共生・協働推進課
7	ピースゼミ			○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 飯田市平和祈念館を拠点に高校生、若者が平和について主体的に学ぶことを支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平和に関する講座を年間9回実施 ・ 第4回までは動機付けの内容であり、それ以降の内容は参加者が学びたい内容にする。 	生涯学習・スポーツ課

飯田市キャリア教育推進協議会設置要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、幼児期の教育から高等教育まで、発達の段階に応じ体系的に行うキャリア教育の推進を図るため、産学官の連携・協働により活動する飯田市キャリア教育推進協議会を設置することについて必要な事項を定めるものとする。

(用語の定義)

第2条 この要綱において、キャリア教育とは、一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程を促す教育をいう。

(設置)

第3条 キャリア教育の推進を図るため、飯田市教育委員会（以下「教育委員会」という。）に飯田市キャリア教育推進協議会（以下「推進協議会」という。）を設置する。

(推進協議会の任務)

第4条 推進協議会の任務は、主に次に掲げる事項とする。

- (1) キャリア教育の推進に関する基本的な方針を定めること。
- (2) キャリア教育の推進に関する評価及び検証を行なうこと。

(推進協議会の組織)

第5条 推進協議会は、委員30人以内をもって組織する。

- 2 委員は、学識経験者、企業関係者、PTA関係者、学校関係者及び行政関係者等から教育委員会が委嘱する。

(委員の任期)

第6条 委員の任期は、1年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第7条 推進協議会に会長及び副会長を置き、会長は、飯田市教育長をもって充て、副会長は、会長が指名し、教育委員会が委嘱する。

- 2 会長は、会務を総理し、推進協議会を代表する。
- 3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときは、会長の職務を代理する。

(会議)

第8条 推進協議会の会議は、会長が招集し、会長が議長を行なう。

- 2 会長は、必要があると認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求めることができる。

(研究委員会)

第9条 キャリア教育の推進に関する具体的な事業を行う機関として、推進協議会に研究委員会を置く。

- 2 研究委員会は、推進協議会が定めたキャリア教育の推進に関する基本的な方針に基づき、事業の企画、立案及び運営等を行うものとする。
- 3 研究委員会は、会長が指名する委員をもって構成する。
- 4 研究委員会に委員長を置き、会長の指名により定める。
- 5 委員長は、研究委員会を総理し、研究委員会を代表する。
- 6 会長は、研究委員会を置く必要がなくなると認めるときは、これを廃止することができる。

(事務局)

第10条 推進協議会事務局は、教育委員会生涯学習・スポーツ課及び学校教育課内に置く。

2 研究委員会の事務局は、教育委員会生涯学習・スポーツ課及び学校教育課内に置く。

(補則)

第11条 この要綱に定めるもののほか、推進協議会の運営に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

付則

本会設置要綱は平成21年3月31日より施行する。

本会設置要綱は平成30年12月1日より施行する。

本会設置要綱は令和4年5月1日より施行する。